

産経新聞

4月11日掲載 (生活Life面)

産 経 新 聞

<第三種郵便物認可>

## 車椅子対応の式進行 着脱しやすいドレス

体に障害があってもすでに  
きな結婚式を挙げたい。  
そんな願いをかかえる「バ  
リアフリーウエディング」  
への取り組みが始まっている。  
車椅子利用者の目線に  
合わせた歪式スタイルにし  
たり、車椅子でも着脱しや  
すいウエディングドレスを  
用意したりするなど、障害  
がハンディとならないサー  
ビスを目指している。

(竹岡伸晃)

### 「式を挙げてみたい」 ウエディングドレスを身 に着けた新婦が、純白の車 椅子に乗ってチャペルの中 をゆっく進む。聖壇の前 に新郎と並び、牧師から祝 詞を受ける。夫婦になるこ とを誓約し、証書台で署 名。新郎が車椅子を押しな がら新婦と退場する。 2月上旬、都内の結婚式 場で行われたバリアフリー ウエディング模擬挙式の様 子だ。牧師は聖壇から降り て新郎新婦と向き合い、さ らに新婦を見下ろさないよ う、新婦と牧師は式の間、 椅子に座っていた。 バリアフリーウエディングの取り組み 模擬式には車椅子利用 者6人を含む約50人が出 席。車椅子の出席者からは 「この方法なら結婚式を挙 げてみたい」「新郎と新婦 が同じ目線でいることに感 動した」などの感想が寄せ られた。 企画したのは「どうコー ポレーション」(東京都港 区)の才野美和子社長。平 成21年10月に起業し、座席 やフレームなどを純白で統 一した車椅子をデザイン。 障害者の結婚式用レンタ ルや販売を行っている。「障 害があると結婚式を行うこ とが難しい」という現実を 受け入れ、「対応経験が乏し い」などの理由で受け入れ を断る式場が少なくない (才野社長)。面倒を避け るため、会議室などを借り てパーティー形式で行け ることも多いという。 才野社長は模擬挙式を行 った理由について、「障害 があっても、すでに結婚 式がチャペルで挙げられる ということが提案したかっ た」と説明する。 模擬式では、車椅子に 座ったまま簡単に着脱でき るウエディングドレスも披 露。才野社長がデザインし たドレスは上半身部分のピ スチエとスカートに分かれ ており、いずれも脇を開閉 して着脱する。スカートは エプロン仕様で、座った状 態でかさばらないよう、太 ももの裏部分やお尻には生 地を使用していない。 夢の実現手助け 貸衣装会社の曾我(文京 区)は、背中側にチャージ ン素材を使ったドレスを紹 介。4～5時間に及ぶ結婚 式。披露宴が体に負担とな らないよう、通気性や伸縮 性、滑りにくさなどにた わったという。やはりピス チエとスカートに分かれ、 脇のファスナーを開閉して 着脱する。 企画・開発に携わった木 康元取締役は「障害があ ってもなくても、結婚式に 抱く夢は同じはず。車椅子 の女性が夢を実現させる助 けになれば」と話している。 影響で過去10年で約36%減少した。一方、 どうコーポレーションの才野社長による 経済産業省の「特定サービス産業動態統 計調査」によると、平成23年に東京・大阪 約7万件あるという。曽我の鈴木取締役は なお、都道府県の結婚式場で行われた結 式は5万5176件。不況や高齢化などの 都内の結婚式場で行われたバリアフリーウエ ディング模擬挙式(どうコーポレーション提供) 結婚式は過去10年で約3割減